

土地点・出土年月日などのデータを書き込み、図面を作成します。人々の生活に密着した食器であり、商品でもあった土器の出土地点や帰属時期を調べ、その生産と消費のあり方を解明することで、奈良時代の歴史をひも解いていきます。



一般の人々にむけたプレゼンテーションとして、復元も欠かせない作業です。復元された土器は標本や展示資料として使われます。また、文字や絵の書かれた墨書土器や施釉陶器といった注目すべき遺物について、現在データベース化を進めています。

このほか、国際遺跡研究室の唐三彩に関するプロジェクトにも協力しており、古代における施釉陶器についての調査・研究をすすめています。



#### 考古第二調査室(平城宮跡発掘調査部)

考古第二調査室は調査員4名からなり、洗浄、収蔵、復元を担当する整理作業員5名、実測図の作成やデータベース管理を担う派遣職員4名がこれを支援しています。ここでは発掘調査で出土した土器、土製品の整理、研究をおこなっています。平城宮跡の膨大な出土品は、古代の土器研究の最も基準となる資料です。

発掘現場から持ち帰られた土器・土製品は丁寧に洗われ、接合を検討します。そして、調査回数・出